



〈コスミックホール 1年の歩みより〉 H30.12.23

二次予選出場者 15名が決定!

今回は、参加者がハイレベル者ぞろい。
第2次予選出場者の選出に思いのほか時間がかかりました。

審査員の方々の慎重な審議の結果、15名の方が選出されました。

二次予選出場者 (エントリーナンバー)

「10」 「14」 「40」 「41」
「43」 「56」 「63」 「67」
「70」 「77」 「84」 「95」
「109」 「110」 「120」
以上の方々です。

【二次予選 課題曲】

2次予選の課題曲 暗譜で演奏すること。
W.A.Mozart:Klarinettenkonzert Adur K.622
モーツァルト:クラリネット協奏曲 イ長調 K.622 全楽章

いよいよ始まった! 木管コンクール ~ 色とりどりの花のおもてなし ~



ハワイエの玄関では、黄色い実をつけた大きな柿の木(ぼく)が生けられ、演奏者を迎えている。

ホールの階段の隅には、エンジ・白・ピンクのコスモスが壺いっぱい咲き誇っている。テーブルには世界に名を馳せる「アサミローズ」の美しいバラのフラワー・アレンジメント。加東市の秋の空気だ。静かで、清々しい。

このハワイエの空気に触れ、遠方よりコンクールに
来られた皆さんの心が幾分でも和むだろうか。



(株)ビュッフェ・クランポン・ジャパン 青柳さんのメッセージ

30回という節目を迎えられたコンクールの開催、お祝い申し上げます。このコンクールで仕事をするのは、私自身としては5回目となります。出場者 受付の横の修理ブースで、出場者の皆さんの集中、緊張、不安、終演後の安堵など、様々な感情が表情に交錯するのを横目で見つつ、仕事をしています。皆さんが「来て良かった」という思いと共に、コスミックホールを後に出来るよう、微力ながらお力添え出来れば、と思っています。

楽器に気になる箇所がある方は、お気軽にお声かけ下さい。

株式会社ビュッフェ・クランポン・ジャパン 青柳 亮太

(青柳さんにお聞きしました)

音のバランスを調整することが多いです。今日は演奏前より演奏後の調整が多かったですね。調整だけでなく、緊張をほぐすという場合もあるかな?。ただ、調整後、ここでは音を出して確かめられないので、そのことが気になります。



NHKのEテレ「クラシック音楽館」の案内人としてすっかりおなじみの「マロさん」こと、篠崎史紀さんが東条コスミックホールに来られるのは今回が2度目。前回同様、天使の羽のような素晴らしいヴァイオリンの響きは勿論のこと、楽しいトークとお人柄に益々ファンになりました。今回は、クリスマスコンサートにふさわしく、アヴェマリア特集として数々の名曲をはじめ、あのサラサーテの「チゴイネルワイゼン」の超絶技巧にも感動!「ピアノ界の貴公子」入江一雄さんのピアノの素晴らしさも相まって、お二人の演奏にすっかり魅了されました。

N響新コンサートマスター 篠崎史紀&入江一雄 クリスマスコンサート



【コンサート入場者の感想より】

- 本物の演奏を聴くという、この上ない贅沢を東条で味わえるとは。
- ヴァイオリンの音色がこんなに澄み切って美しいとは、初めての経験です。一流の演奏家というより、芸術家をこんな田舎で目の当たりにできるなんて幸せ。
- 久しぶりに音楽の神髄に触れた想いでした。
- とろけました。マロさん最高!
- ヴァイオリンとは音符に感情を語らせる楽器なのだと思います。語り、歌い、さ さやき、そしておせぶ。マロさんの技法あつてのことですが。

~ 出場者の方々の感想 ~

- 今年初めて来ました。東京から来たのですが、タベ遅くに着いたので様子がわからず不安でした。
- このホールには高校時代から何回か来ています。とにかく、周りの皆さんが親切で..演奏の最後にはこんなおみやげ(ヤクルト)までいただいて..
- 実は2回目なんです。31歳くらいの時に受けて、その時は緊張したまま終わったという感じてしたが、それに比べたら今回は、自分の持っているものが出せたかな。ここは、あたたかいという感じがいつも心に残ります。
- 初めて来ました。ホールがよく響いてとても気持ちよく吹くことができました。
- ここのホールは本当にいいホールです。
- 最終の演奏で、演奏者が一人ひとり減っていく中でさびしさもありましたが、余裕をもって練習できて良かったと思います。私はずっと以前に一度来まして、今回が最後だということで再挑戦しました。緊張した部分もあったし、気持ちよく吹けた部分もあってなんとも言えませんが、私の中では自分の思いを全うできて安堵しています。

~ ボランティアさんの感想 ~

【受付係から】

- ◎ 出場者の皆さんが会場に来られて、コンクールの空気を最初に感じられる場所です。このことを、いつも心しています。受付を済まされると、練習会場に入られるまでの時間は、イスに座って静かに“スイッチ・オフ”の世界に入られているようです。その後、練習会場→舞台裏扉前待機→舞台袖→演奏。私は、常に、この分刻みのスケジュールを気にかけてながら見守ります。やがて演奏を終えた皆さんが、再び受付の場所を後にされる姿を見てホッとします。私には『日本木管コンクール』を出場者と同じように共有することはできませんが、思いを馳せることはできるのではないかと思います。4日間を務めたいと思います。

【誘導係から】

- ◎ “がんばってきました。まだ後があるのでがんばります”とニコニコ顔。演奏を終えた人の表情だ。私たちのいる場所は、今から演奏に行く人と終わった人の表情が伺えるところ。それぞれの表情の差をあたたかく受け止めたい。

【接待係から】

- ◎ 係の先輩の方が今日はおられないので、お茶を入れるタイミングがうまくできるか心配です。今、最終演奏者なので、カップにお茶を入れてあたためているところです。
がんばります。



第30回日本木管コンクール
(クラリネット部門)
会場:東条文化会館コスミックホール
発行日 2019年10月26日(土)
(第2号)

ほっとねっと

発行:日本木管コンクール委員会
〒673-1311
兵庫県加東市天神66
TEL 0795-47-1500



審査員の先生による 一次予選 講評

山本 正治

東京藝術大学名誉教授、武蔵野音楽大学特任教授
一般社団法人日本クラリネット協会会長

◎審査委員長

楽器は何の為に演奏するのか。人それぞれ目的は違うかもしれないが、専門家になるなら自分の演奏は聴いている人「聴衆」が評価する。大事なのは聴衆の人が聴いている曲、演奏家を常に演奏会で聞いている事が大事。音楽を聞く人は何かを感じたいから音楽を聞く。クラシック音楽だとすると作曲家の再現が大事な要素で、特に日本の演奏家にとって楽譜から作曲家のメッセージを読み取る勉強が特に大切な事だと思う。
クラシック音楽を演奏するなら、音楽、美術、文学の総合芸術であるオペラを勉強すべきである。



磯部 周平

東邦音楽大学特任教授、元NHK交響楽団首席クラリネット奏者

自分はもしかしたら「天才」かも・・・と思う気持ちと、「凡クラ」なのでは・・・との葛藤の中に、真実が見つかるのでしょうか。ユーチューブの名演や作曲家の書いたメトロノーム記号の呪縛から逃げなければなりません。本当の「愛」や「幸せ」も何処かにあるものでは無く、今ここに、自分の中にあるかも・・・。
人に説教する資格はありませんが・・・。



十亀 正司

東京藝術大学非常勤講師、武蔵野音楽大学非常勤講師

人前で演奏するという事、それは取り組んでいる曲を自分を通して聴いている人に届けるということだと思います。自分のために演奏しているのではないということだと。そのことを思うと、多くの人がその届けるという作業が疎かになっていると僕は思いました。もっと聴衆者に対して音楽を展開して欲しい語りかけて欲しい、と思いました。

もう一つ思ったことは、ホールの特性を知るという大切さの事です。このホールは凄く響くホールです。曖昧なアタックは繋がって聞こえてしまいます。必要以上に速く吹くと、響きに埋もれてメロディが聞こえなくなってしまいます。そんなことを思いながら審査をしていました。



ブルックス・信雄・トーン

愛知県立芸術大学准教授

この度、第30回日本木管コンクールの審査員に迎えられて光栄です。今回は、私は2回目ですが、前回の出演者よりもレベルが高かったような印象を持ちました。

一次予選では、4曲の無伴奏の演奏を聴いてすごく興味を持ちました。

最初、いろんなソロのスタイルがあるので難しいように思ったのですが、レパートリーに関係なく、皆さんの音楽性をもって大変スムーズにいったと思います。

ところで、二次予選に15人しか選ばれないのはとても残念に思います。みなさん、全員すばらしい演奏者でした。



サトー ミチヨ

東京交響楽団首席クラリネット奏者

皆さん一次予選お疲れ様でした。ここ数日で気温が下がり、乾燥も始まる中、体調の維持やリードの調整は大変だったと思います。一次予選通過者は本来の自分の実力プラス、コンディションをうまく整えていたのではないのでしょうか。

参加者全員にお願いしたい事が2つあります。これは毎日ステージに立つ私がいつも心がけている事でもあります。

1つは音楽表現やテクニックを語る前に、楽器に健康な息をしっかりと入れて健康な音を出すということ。個性や技術にばかり目がいき、自分がどういう音を出しているのか聴かずに演奏している人が多かったように思います。2つ目は楽譜を正しく読むということ。速度表示から表現記号や強弱記号を書いてある通りにやる、そして自分の思い込みや都合や好みに走り自己満足のパフォーマンスに終わらないようにしたいものです。



亀井 良信

桐朋学園音楽大学准教授、東京音楽大学講師
洗足学園音楽大学非常勤講師

バランス良くとは、客観的に自分を見る事。なかなか難しい。

今から20数年前、あるプレーヤーに「色々な方向から勉強をしなくては」と一言かけられた事を良く思い出す。

聴衆の前で作曲家が書いた作品をどのようなバランスで自分を表現するか。

よく見て、よく感じて、よく聞く。制約がある中で自由になる事が西洋音楽の醍醐味。

一次は色々な事を発見できる所。多くの人に聞いてもらいたかった。



松本 健司

NHK交響楽団首席クラリネット奏者、東京音楽大学兼任准教授

みなさんの素晴らしい演奏を聴かせていただいて大変感動しております。技術的にも音楽的にも申し分ない演奏をなさっておられて、みなさんの主張を受け止める私たち審査員も集中力と体力を使う2日間でした。私の中の妥協点を現時点に設定して一次予選を聴けばほとんどの方が合格で二次予選に進出していただけます。ただしそれでは審査員としての職務を全うできないので、妥協点を少しだけ高くすると二次予選に進出なさる方は数人でしょう。もしこのステージが国際コンクールだったらと考えると果たして何人の奏者が二次予選、本選に進めるでしょうか。かつてアジア地区では最先端だった日本のクラリネット界は現在かなりの劣勢です。私たちに足りないものを見出す大切な時期だと思えます。



～加東市ふるさと納税(ふるさと応援活動支援金)のご協力をお願いいたします～

特定の団体(支援希望団体)に対する寄付の受付を開始しています。

QRコードをスマホ等で読み取っていただくと加東市ふるさと応援活動支援交付金交付制度のページにつながります。申請用紙については、ホームページからダウンロードできます。

特定の団体(支援希望団体)については、

「特定非営利活動法人 “新しい風かとう”」にお願いします。

詳しくはホームページをご覧ください。

また、団体名をクリックしますと「特定非営利活動法人 “新しい風かとう”」のホームページをご覧ください。



～日本木管コンクール開催における協賛金・ご寄附にご協力をお願いいたします～

日本木管コンクールは、地元の企業や楽器メーカー各位をはじめ、コンクールを応援して下さる個人の皆様の温かいご寄付とご協賛支援に支えられて取り組んでまいりました。

「この素晴らしいコンクールと文化の灯を消してはならない」との思いと、若手音楽家の登竜門として、また日本の音楽文化の発展に寄与した功績をご理解いただき、今後もコンクールを継続するためにもご協力を仰ぎたいと考えております。

どうぞ、皆様の温かいご支援を宜しくお願いいたします。

詳しくは「特定非営利活動法人 “新しい風かとう”」又はQRコードをスマホ等で読み取ってご覧ください。



加東市東条文化会館
コスミックホール



ホームページ
<http://cosmic-hall.org/>

